すみだ地域学情報 We!

第13号
2010年
（平成22年）
7月発行

発行：墨田区教育委員会（生涯学習課）
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号
☎ 03-5608-6309 FAX 03-5608-6411 ✉ syougaigakus@city.sumida.lg.jp

ふれあい 活力 ゆとり
すみだ

すみだ やさしいまち宣言・人と地域と環境のために

すみだの風景

墨田区内の河川

その1　北十間川の沿革と新タワー水辺拠点ゾーン

建設中の歩行者専用橋（平成22年6月）

いま、建設が進んでいる東京スカイツリー®のすぐ南側を流れる北十間川は、旧中川と隅田川を結ぶ、総延長3・24kmの荒川水系の一級河川です。

この川は江戸時代の万治年間（1658年から1661年まで）の開削とされ、東は旧中川に注ぎ、大横川との合流点の西はその後に開削された源森川に連なり、水運や農業用水に活用されました。

名称は本所の「北」を流れ、川幅が「10間（約18m）」であることに由来します。

明治35（1902）年に開業した業平橋駅（当初は吾妻橋駅）を経由した貨物の輸送にも活用されるなど、水運に重要な役割を果たしました。

源森川と分断された時期もありましたが、大正元（1912）年には源森川も含め、北十間川と称されるようになっています。

大正10（1921）年の東京市の調査によると、枕橋下を通過した船は、1日に334隻もありました。

戦後になると船による輸送が衰退し、昭和53（1978）年に東武橋の少し西の所に北十間川樋門（写真）がつくられ、船は航行できない状況となり、現在に至っています。

この川筋には、西から順に、枕橋、源森橋、小梅橋、東武橋、京成橋、西十間橋、十間橋、境橋、福神橋、小原橋、新小原橋があり、架設時期は江戸から昭和まで、さまざまです。

一番古い橋は、文花一丁目と江東区亀戸三丁目と結ぶ境橋で、この川の開削時に架けられました。昔の西葛西領の新田（しんでん）筋（南側）と本田（ほんでん）筋（北側）とを分けるところから、この名がつけられたといわれています。

また、当初は木製であった小原橋は老朽化して架け替えられて歩行者専用となり、昭和51年に新小原橋が架けられました。

福神橋（写真）は、「東京府誌料」に「吾妻橋亀戸村にあり、吾嬬の森の辺なり、北の橋とも云う、長十間、巾二間」とあります。近くに吾嬬神社が鎮座するところから、これにあやかって、福神橋と改称したといわれていますが、架設の年月は不明です。

北十間川樋門

福神橋

さて、区では、平成24年春に予定されている東京スカイツリーの開業を契機に、水辺空間を活かしたまちづくりや観光施策を推進する一環として、新タワーのすぐ南側を流れる北十間川の整備に取り組んでいます。

計画では、「北十間川水辺活用構想」に基づき、東武橋から京成橋の区間を「新タワー水辺拠点ゾーン」と位置づけ、親水テラスや展望デッキ、人道橋（歩行者専用橋）などを設置し、にぎわいのある水辺空間となるよう、現在護岸修景工事が行われています。

参考　「橋はかたる」
（墨田区教育委員会
昭和58年3月）